



小鹿野町

OGANO TOWN



五感で感じる自然の町

～森の道の駅から始める観光再生プロジェクト～

2023年8月23日

小鹿野町

まちづくり観光課地域商社推進室

山下 雄一

小鹿野町の紹介

面積	171.3 K m ²
総人口	10,448人 ※1
森林面積	14,059ha ※2

※1:人口減少が続き、H29年4月1日に
全域過疎指定されました。

※2:町全体の約82パーセント

産業	製造業(電気機械など)
	建設業
	宿泊飲食サービス



小鹿野町の概要

小鹿野町は…
盆地に守られ
現代まで
自然文化が
色濃く残る町



小鹿野町公式ご当地キャラクター「おがニヤツピー」

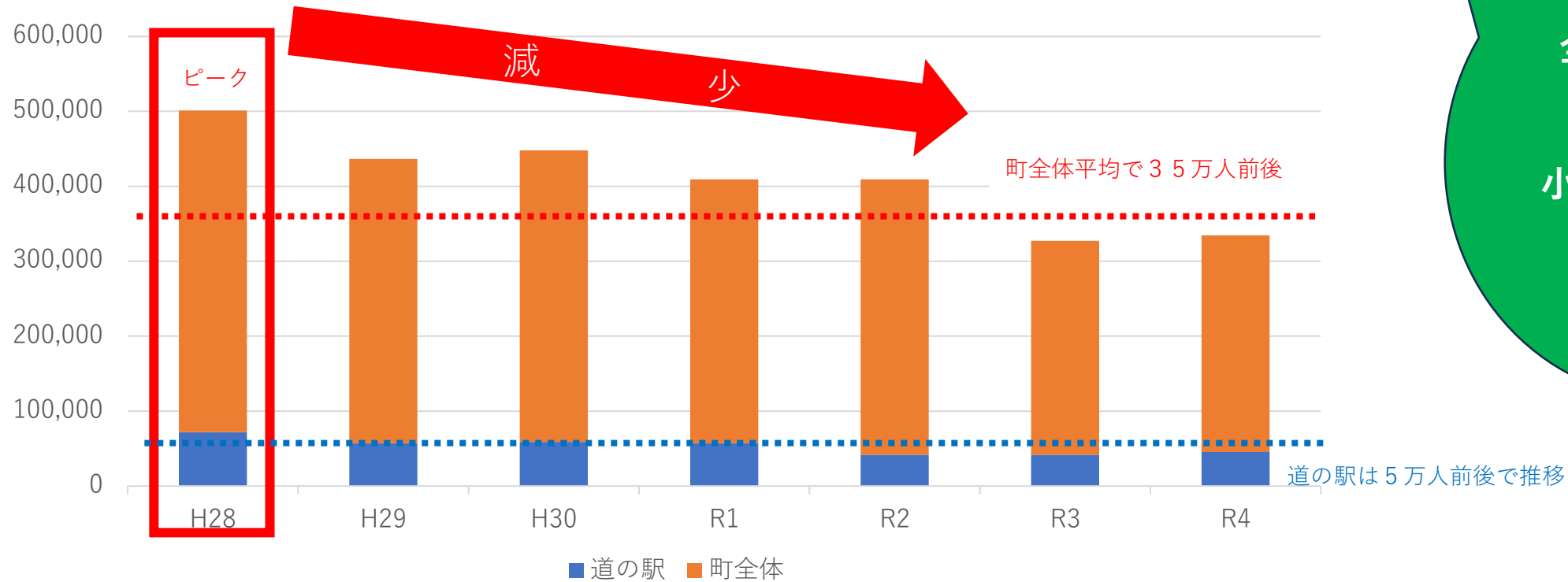


小鹿野町公式ご当地キャラクター
おがニヤツピー

グッズ展開等にて道の駅のPRにも寄与する予定の
小鹿野町公式ご当地キャラクターです。

秩父郡市全体では900万人前後の観光入込客数がある。
小鹿野町は平均して35万人前後である。

小鹿野町観光入込客数データ



全体からみて
少ない

小鹿野町として
50万人を
目指したい

まずは、観光の玄関口である道の駅から手を入れたい。

道の駅について

両神温泉薬師の湯

道の駅 両神温泉薬師の湯 概要 ~こんなところ~



山に囲まれた道の駅は、
【食・癒し・お土産】などの
要素が詰まっている
登山帰りやドライブの目的地として
主に高齢層に来て頂いている

道の駅は 小鹿野町の観光と地域を繋げる全てのハブ

- ・豊かな自然の中心に位置する
- ・町内へ入り込む人々が一番集う場所
- ・地域雇用の創出の場
- ・農産物の生産者や地域住民と交流を深めやすい基盤

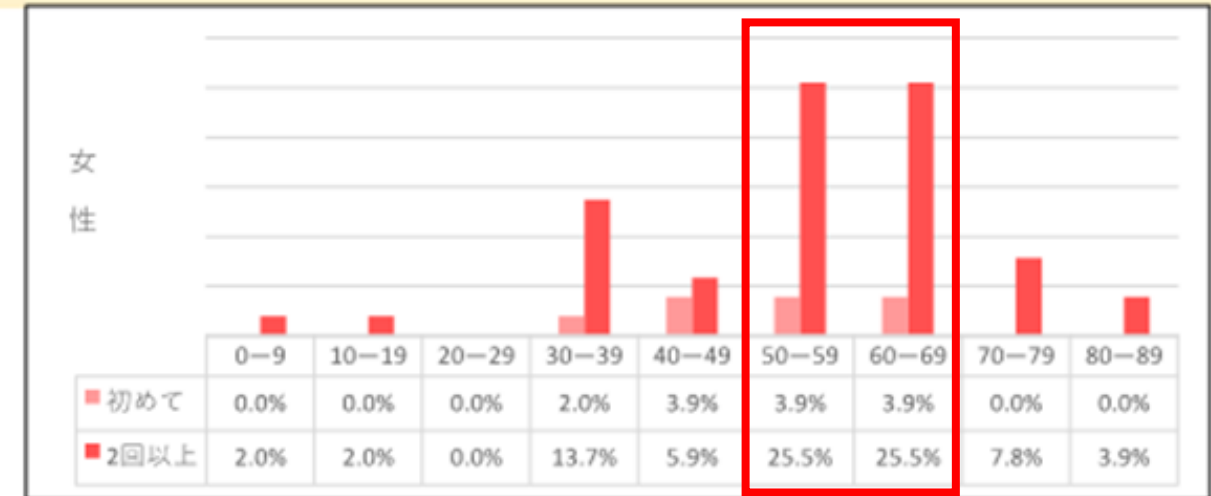
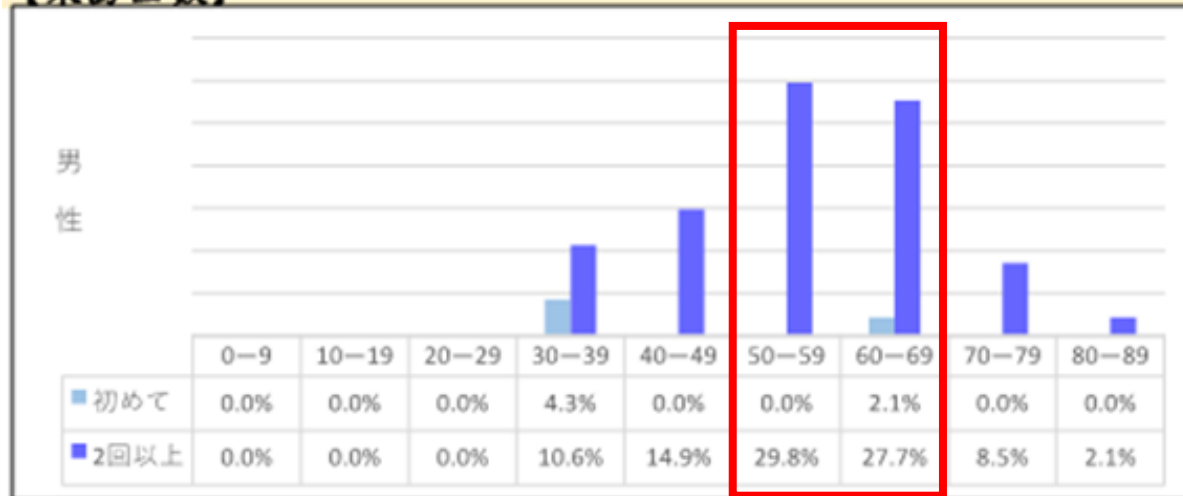


道の駅から新たな魅力を発信し
小鹿野町全体の観光再生につなげたい！

道の駅 両神温泉薬師の湯 令和4年度秩父おもてなし観光公社 観光客満足度調査

※男女・年代別調査

【来訪回数】



50～69歳のリピーターに
支えられる施設であることが分かる。

| **子どもたちの思い出**となる施設

| **森の道の駅**と言えば**小鹿野町**！

と誰もが連想する施設



- | | |
|------------|---------------------------------------------------|
| 名前 | 東京 太郎(33) |
| 世帯 | 妻と子2人と4人暮らし |
| 仕事 | 都内のビルでITエンジニア |
| 生活 | 子ども中心の生活。
仕事の間は保育園に預ける。
都心は緑も少なく癒しが少ない。 |
| いまの
気持ち | 普段触れられない自然を、週末
だけでも子供に感じさせたい。
行き慣れた場所を作りたい。 |



『新たな仕組みづくり＋イメージ定着』

子供達が**安心かつ気軽に『森』**を感じられる

仕組み作り※施設は町独自にR5年度に改修の準備中

気軽に『森』を感じられる『**森の道の駅**』として

ブランディングの定着



お掃除ロボットの導入

子供達のマスコットの存在になるような
ロボットを導入



若い世代が手に取りたくなる新商品の販売

チーズケーキ、壺焼き芋、Tシャツ、温泉の素など



SNS映えするスポットの創出

季節に応じた風鈴や竹まり、傘の飾りつけなど
敷地を活用した写真映えスポットの創出。



未来のお客様が来ていない！

高齢者はリピーターが多く定着しているが、
子供を含めた**ファミリー層**が来ていない。

道の駅で提供するサービスに魅力がない！

温泉場にサウナなどの設備がない。
食事や直売所のお土産の内容が**高齢者向け**になっている。

持続可能な施設になっていない！

どこの公共施設も似たような課題を抱えていることが多いですが、**例にも
れず当施設も同じ**で、主には資金面において町の支援で成り立っています。

頂きたいご提案

- | 子供やご家族が森を感じる事が出来る仕組み
- | 地域内外の人と人の交流が生まれる仕組み
- | 子供連れのご家族や若い世代が寄り道ではなく、
目的地にしてくれる魅力の付与

森を感じる仕組み

人工の建物の中で
森林浴が出来る・・・
とか



五感で感じ、記憶に残る仕掛け

お客様が打ったお蕎麦をその場で
食べることができる体験教室

森を感じる
ライブコンサートの開催・・・とか



お客様と地域住民が気軽に つながることが出来る仕組み

地元農家さんとの農業体験

道の駅のスペースを活用した
地域住民とのふれあい会の実施・・・
とか



効果的な魅力発信の仕組み

道の駅の魅力を伝える効果的な
情報発信の仕組み

SNS映えする新たな魅力スポット
の創出・・・とか



①場所の提供

道の駅両神温泉薬師の湯という施設を活用した実証実験等、全力で共創します。

②予算の伴う事業の本実施

事業を行うには費用の発生がつきものです。実証実験後に効果測定！
予算化を検討します。

③他事業への発展及び他課への拡大の一助

一緒に事業をするこのご縁を次に繋げていきます。地域商社推進室として本事業に留まらず、他事業への展開拡大や、さらには他課の事業へ携わる一助を担います。

④共通の課題を抱えている自治体への展開

小鹿野町だけに留まらない。

定住自立圏を形成する秩父郡市(1市4町)は手を取り合い、事例共有を図ります。

小鹿野町の理想

子供たちの思い出となる施設
森の道の駅としてのブランディングが確立・定着している

小鹿野町が困っていること

未来のお客様が来ていない！

ご提案いただきたいこと

子供連れの家族が楽しめる仕組み、人と人とが交流できる仕組み、道の駅のブランディングなどに着手したい

企業様のメリット

予算化の検討・他課の事業や他自治体への横展開などで相互メリット

小鹿野町の想い

森の道の駅を目指すのはこれからです！

子どもたちの声や小鹿野町の活気を
豊かな自然を活かして
道の駅から取り戻したいと考えています。

道の駅を実証フィールドとして
一緒に取り組んでいきましょう！